



宮原良治司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通6-28
発行人 下町豊重
編集人 下町豊重
カトリック福岡司教区
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部60円

4月の意向

教皇様の意向のために祈りましょう
【世界共通】戦地の医師や医療従事者
【日本の教会】家族

教区叙階式 ペトロ船津亮太助祭誕生
足りないものを追いつめていく

3月21日(木・春分の日)、ペトロ船津亮太助祭の叙階式が宮原良治司教の主司式で行われた。前夜の嵐は静まり、カテドラル大名町教会のステンドグラスを通して柔らかな春の光が受階者を包み、集った約650人の祈りと共に、聖堂は喜びで満たされた。



宮原司教より授けを受ける船津新助祭

穏やかな天気となった春分の日、ミサ前には自席でロザリオを繰る婦人の姿があった。午前11時に開式、約30人の司祭団、侍者、船津神学生、宮原司教が入堂した。宮原司教は「祝福と喜びのしるしとして教会に与えられた、助祭

受階者の約束と進む。平田敬神父に呼び出しを受けた船津神学生は、久留米教会の宮崎保司神父と信徒代表に付き添われて、前に進み出た。司教が公に船津神学生の助祭叙階を認める言葉を宣べ、訓話が行われた。宮原司教は訓話で

叙階のめぐみに感謝して祈りを捧げましょう」と会衆を招いた。叙階の儀は、候補者の選出、司教の訓話、

聖香油ミサのご案内
日時：4月17日(受難の水曜日)15時
場所：カテドラル大名町教会
司式者：ドミニコ宮原良治司教
◆司祭職制定の記念でもあるミサです。福岡教区の司祭団のために共に祈りましょう。
◆ミサ後、今年司祭叙階60・50・25周年を迎える司祭のお祝いをいたします。

4月13日(土) 司教座聖堂(カテドラル大名町教会) 献堂記念
司教座聖堂は教区の母聖堂と呼ばれ、一小教区の聖堂であることを越えて、司教と共に全教区民が集うところ、その献堂記念日は教区の祝日です。福岡教区の神の民の発展のためにお祈りください。今年4月14日(日)が「カテドラル特別献金日」です。福岡教区の宣教活動のため、カテドラルの維持管理のための献金をお願いいたします。

熊本地震から3年
2016年4月14日、16日に熊本・大分地方を襲った地震から3年が経ちます。今もなお悲しみ、苦しみ、不安のうちに生活を送られる方のために祈ります。すべての人の苦しみを担われ、復活の希望と光を示してください。キリストが共にいてくださることを、私たちがあかしできますように。また、多くの支援、つながりを心より感謝いたします。
(福岡教区災害被災者支援室、3面に関連記事)

助祭奉仕職の内容を説き、「仕えらるるためではなく、仕えるために一生き、キリストの弟子として世と神とに仕え、すべての人に福音を告げ知らせることを大切にしてほしい」と述べた。また、「福音を伝える希望から目をそらさないで」とも語った。

受階者の約束の後、諸聖人の連願が行われ、床に伏した船津神学生のために会衆が祈りをささげた。次に、司教の授けと叙階の祈りが唱えられ、船津亮太助祭が誕生した。船津新助祭は浦川務神父の助けを得て、ストラ(聖職者の権威を示すもの)とタルマチカ(助祭の祭服)を着けて、皆に披露。会衆から大きく温かな拍手が起きた。

拝領祈願後の祝賀式で、司祭代表として挨拶した浦川神父は「あなたを喜んで迎え、司祭団を築いていきたい。よろしく申し上げます」と船津助祭を歓迎。信徒代表の平田文夫氏(久留米教会)は「司祭叙階まではあつという間かもしれませんが、与えられた時間を祈りのうちに過ごしてください。信徒一同、祈り支えていきます」と述べた。

船津新助祭は、司教、司祭団、信徒に感謝の意を述べた後、叙階直前に久留米教会の子ども達と交わした会話をもちつて今の心境を語った。「子ども達に『助祭って何?』と尋ねたら、『神父さまの前のあといっしょ、神父さまのあといっしょ』という返事がありました。子ども達から教えられた『神に僅かに劣るもの』(詩編8)として創造されました。私達は皆、足りないものを追いつめていくよう創られているのでしょ。今日、特別なめぐみ頂き、これからも『神父さまのあといっしょ』を大切に歩んでまいります。」

司祭団を築いていきたい。よろしく申し上げます」と船津助祭を歓迎。信徒代表の平田文夫氏(久留米教会)は「司祭叙階まではあつという間かもしれませんが、与えられた時間を祈りのうちに過ごしてください。信徒一同、祈り支えていきます」と述べた。

船津新助祭は、司教、司祭団、信徒に感謝の意を述べた後、叙階直前に久留米教会の子ども達と交わした会話をもちつて今の心境を語った。「子ども達に『助祭って何?』と尋ねたら、『神父さまの前のあといっしょ、神父さまのあといっしょ』という返事がありました。子ども達から教えられた『神に僅かに劣るもの』(詩編8)として創造されました。私達は皆、足りないものを追いつめていくよう創られているのでしょ。今日、特別なめぐみ頂き、これからも『神父さまのあといっしょ』を大切に歩んでまいります。」

船津新助祭は、司教、司祭団、信徒に感謝の意を述べた後、叙階直前に久留米教会の子ども達と交わした会話をもちつて今の心境を語った。「子ども達に『助祭って何?』と尋ねたら、『神父さまの前のあといっしょ、神父さまのあといっしょ』という返事がありました。子ども達から教えられた『神に僅かに劣るもの』(詩編8)として創造されました。私達は皆、足りないものを追いつめていくよう創られているのでしょ。今日、特別なめぐみ頂き、これからも『神父さまのあといっしょ』を大切に歩んでまいります。」

船津新助祭は、司教、司祭団、信徒に感謝の意を述べた後、叙階直前に久留米教会の子ども達と交わした会話をもちつて今の心境を語った。「子ども達に『助祭って何?』と尋ねたら、『神父さまの前のあといっしょ、神父さまのあといっしょ』という返事がありました。子ども達から教えられた『神に僅かに劣るもの』(詩編8)として創造されました。私達は皆、足りないものを追いつめていくよう創られているのでしょ。今日、特別なめぐみ頂き、これからも『神父さまのあといっしょ』を大切に歩んでまいります。」

船津新助祭は、司教、司祭団、信徒に感謝の意を述べた後、叙階直前に久留米教会の子ども達と交わした会話をもちつて今の心境を語った。「子ども達に『助祭って何?』と尋ねたら、『神父さまの前のあといっしょ、神父さまのあといっしょ』という返事がありました。子ども達から教えられた『神に僅かに劣るもの』(詩編8)として創造されました。私達は皆、足りないものを追いつめていくよう創られているのでしょ。今日、特別なめぐみ頂き、これからも『神父さまのあといっしょ』を大切に歩んでまいります。」

船津新助祭は、司教、司祭団、信徒に感謝の意を述べた後、叙階直前に久留米教会の子ども達と交わした会話をもちつて今の心境を語った。「子ども達に『助祭って何?』と尋ねたら、『神父さまの前のあといっしょ、神父さまのあといっしょ』という返事がありました。子ども達から教えられた『神に僅かに劣るもの』(詩編8)として創造されました。私達は皆、足りないものを追いつめていくよう創られているのでしょ。今日、特別なめぐみ頂き、これからも『神父さまのあといっしょ』を大切に歩んでまいります。」

福岡で難民移住移動者全国研修会
真の共生と問われる司牧

2月28日(木)〜3月2日(土)、日本カトリック難民移住移動者委員会(CORAM)主催(協力カトリックジャパン)の全国研修会が、福岡の大名町教会で開催された。全国から司牧者や信徒など約150人が参加。テーマは「どげな人でもよからうもんい、ここで、分かちあえること」。急増しているベトナム人技能実習生や留学生の現状と司牧について、生の声を聴き、学ぶ機会となった。

時の話題

「福岡カトリック神学院」の開校に寄せて

4月1日、「福岡カトリック神学院」がスタートします。10年続いた「日本カトリック神学院」は終了し、東京と福岡のキャンパスはそれぞれ「東京カトリック神学院」と「福岡カトリック神学院」となりま

賛否両論を耳にしますが、多方面におよぶ長い議論が行われ、日本の司教団が決定し、バチカンが承認しました。司教団は新しい二つの神学院(神学生と養成者)が交流することを望んでいます。ここ福岡の地に神学院は存在し続けます。九州・沖縄という地域性を考慮し、またバチカンの意向もあり、養成のシステムや内容は少し変わりますが、神学院の営みは基本的に同じです。神学院祭(今年11月4日)も近隣小教区での神学生の宣教師実習も継続します。開校時の神学生数は17人、内6人が新入生で4人が助祭です。予想される大きな問題は、運営費の負担増と神学生数の減少の二つです。



ベトナム人司牧にあたるトアイ神父の発題

一日目、3年前より福岡教区でベトナム人の司牧を担当しているトアイ神父(ドミニコ会)が、司牧現場で感じる課題を分かち合っ

た。トアイ神父によると福岡教区だけでも1000人以上のベトナム人信徒がいると推測される。多くが20代前半の若者だ。社会正義、異文化の相互理解の問題以上に、教会としての「時のしるし」にどのように応えていくか、教

会が「福音的な真の共生」の姿をどう示していくかが大切だと力説した。司牧現場の組織的な連携不足も指摘した。トアイ神父と共に登壇したベトナム人留學生は、多くのベトナム人が経済的困難を抱え、将来のことで悩んでいる、また、他のベトナム人は技

能実習生の実態を動画を使い紹介した。技能実習生に与えられた廃屋のような住環境、日本人から暴言を受ける様子などが映し出された。参加者からは「技能実習生に関する問題は、断片的に聞かされていましたが、放置することのできない人権問題であると痛感しました」との声もあった。午後には、入管法改定についてや、カリタスジャパンの排除ゼロキャンペーンについての講話があった。

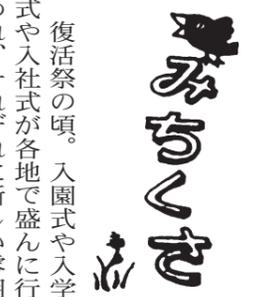
二日目は、3つのグループに分かれて、朝鮮半島からの強制労働の福岡近郊における歴史や、筑後川流域の技能実習生が働く現場のフィールドワークが行われた。最終日はフィールドワークの報告、グループに分かれての分かちあいの後、ミサで閉会となった。CORAM委員長の松浦悟郎司教は説教で「単に物事を批判・非難するのではなく、今回の学びに目を開き、自分自身や教会が変えられるように一歩を踏みだしましょう」と参加者に語った。

皆さまには、ご心配をおかけしますが、二つの神学院のこれからをお見守りください。また地元、福岡の神学院を愛し、訪れ、叱咤激励し、ご支援くださいますようお願い申し上げます。主なる神は、ご自分の計画を必ず実現します。聖霊は自由自在に働き、人を招き促します。困難な時に知恵と希望を与え、導いてくださいます。いつも喜び感謝することができま

福岡カトリック神学院院長 牧山強美神父
【編集注】神学院の設立経緯等については2018年2月20日に日本カトリック司教協議会が文書を発表し、中央協議会ホームページに掲載。

復活祭の頃。入園式や入学式や入社式が各地で盛んに行われ、それぞれに新しい雰囲気にも包まれる。気持ちも一新し、「頑張るぞ」とやる気を出させてくれる時。過去の至らなかつたところを修正し、行くべき道に「希望」という灯りを携えて進んでいこうとする時。神のお導きと支えを願いたい。信仰の方も一新し、主のご復活を契機に歩みができるように努めたいものだ。▼もの心つく頃から中学を卒業するまで、毎日のミサに与り、侍者をするのが好きだった男の子が家の事情で天草を出て関東に就職した。昼は汗と油にまみれて働き、夜は夜間高校に通っていた彼は、毎日のミサに与ることもなく、日曜日のミサも忘れるようになった。信仰深い家に育つたはずなのに、祈ること

もなおざりになった。一年に一度帰省する時に必ず父親から信仰生活を問われ、泣きながらゆるしの秘跡を受けてミサに与つた彼であった。▼実家から離れて暮らすようになると、環境の変化で生活様式が変わる。いただいた信仰も状況次第では隠れてしまう。新しい場所に行くこの時期、新しい環境で過ごすこの時、自分の信仰の居場所も整えてあげないといけない。近くにカトリック教会はありますか?教会を紹介してもらいましたか?あなたの信仰が守れそうな所にいますか?信じることの喜びが継続するところを探してください。私たちの最終的、最高の目的である天国の幸福を得るために必要なことは、生命をかけて勝ち得た天の国を与えてくださるイエス様を信じ、従うことなのです。(S)



みちくさ

教区で2人が祭壇奉仕者に選任 司祭職について考え祈るとき

福岡教区の古市匡史神学生と、韓国・テグ教区より福岡教区に派遣されているジョン・ウォンチヨル神学生の祭壇奉仕者選任式がそれぞれの所属小教区で行われた。2人は「福岡カトリック神学院」の神学生として、助祭叙階に向けて歩み続けている。



宮原司教よりパテナを受ける古市神学生 (左)

入江昭則氏が挨拶。神学生にお祝いとお励ましの言葉を贈った。式を終えた古市神学生は、「日々、有難い。この道に相応しい人間か、常に自分に問いながら歩んできました。これからは神に全てを委ね、祈る司祭を目指したい」と決意を新たにされた。

うららかな陽気の2月24日(日)、浄水通教会にてヨハンネス・マリア・ミカエル古市匡史神学生(浄水通教会出身)の祭壇奉仕者選任式が宮原良治司教の司式によって執り行われた。式には浄水通教会をはじめ、茶山教会などから多くの信徒が参加した。拜領後の祝賀式では、信徒を代表して、茶山教会委員長

2月17日(日)、新田原教会にてマルチェロ・アパミア・ジョン・ウォンチヨル神学生(テグ教区)の祭壇奉仕者選任式が主日ミサの中で挙行された。

候補者の名前が呼ばれると、ジョン神学生は力強い声で「はい」と応じ、祭壇の前に進み出た。宮原良治司教は神学生に対して「聖体の秘跡により深く結ばれるように努力し、自分に託された役割の深い霊的な意味を悟るよう」と教示した。続いて、司教は祝福の祈りを唱え、ホスチアをパテナに載せて神学生の手



聖体奉仕をするジョン神学生 (左手前)

3月9日(土)、大名町教会にて「東日本大震災から8年」の1歩・仲間たち・未来は子どもたちと共に」と題して、福島家族支援「博多にきんしゃうい」講演会を行った。

福島家族支援「博多にきんしゃうい」講演会 未来は子どもたちと共に

現在、福岡教区災害被災者支援室内の活動として7年目を迎えたこの活動グループは、昨年と一昨年で、「カリタス南相馬」、「NPO南相馬」の協力を得て、小学4〜6年生15人を福岡に招くことが出来た。今回、「こどものつばさ」代表である西道典氏(男山八幡神社司宮)に福岡の現状を報告し、2011年東日本大震災

すぎ等の奉仕を行った。選任式には韓国鬱陵(ウルルン)島からジョン神学生の父親が参加し、またテグ教区の先輩イ・ハヌン神父も駆けつけ、ともに祈りをささげた。ジョン神学生は、「共同体

の皆様の前で選任を受けることになって、本当の奉仕職と司祭職について考えることができました。祈ってくださった皆様に心から感謝申し上げます」と喜びを語った。

を受け、子ども達は思い切り羽を伸ばし、南相馬に帰ってくるのことであった。ここまで支援活動が広がった背景には西氏、そして仲間の方たちの相当な苦勞があったことを伺い知ることができた。

西氏は、「子ども達の甲状腺の検査は定期的に行われている。また、線量計の設置もされている。これはずっと続けてほしいと思っている。放射能の汚染については生活圏は除染されているが、河口や山等の線量は高い。だから親は川遊び等させない。これから子ども達の日常を取り戻すため、私にできる事をしていきたい」と結んだ。

報告実行委員 角田茂子(セシリア) 上田 米子 修道女 (マリアの宣教師フランスコ修道会) 2月25日に帰天。享年93。修道生活69年。

訃報

「教区の日」報告書より① 福岡地区 光丘教会 私にきんしゃうい

「教区の日2018」のミサの中で奉納された「小教区信仰活動報告書」。各地区1つの教会の報告を要約して紹介していく。今回は福岡地区、光丘教会の取組み。

信じる喜びから伝える喜びへ② 柔和な人々は、幸い

前回は「貧しさから聖なる者になる」と言う表題をあげました。イエス様のように空っぽになった心を祈り一杯にしましょう。



使徒的勧告『喜びに喜べ』

今回のテーマは「柔和な人々は、幸い」と言うことですが調べて見ると「貧しい人」と「柔和な人」は聖書の中でヘブライ語の同一のこと

その代わりに必要なことは十字架に張り付けられたイエスを見つめること、その力を信じて、同じように自分の悩みを受け入れること(その中で他人からのものが多い)、そしてそれを持つてゆるしを乞いながらゆるすこと。

私にきんしゃうい 復活祭が近づいています。受難と十字架に向かつて進まれる柔和で謙遜なイエスを見つめる時です。日常の務めに張り付けられて、血と汗を流す自分たちもキリストの愛の寛大さを学び、となりの人に「大丈夫よ」と行動をもって伝えたいですね。柔和な人は聖人(さいわい)です。

「信仰伝達の分かち合い」やグループ活動を行った。復活の朝を平和と喜びのうちに迎えることができますように。お祈りしています。執筆 聖ザベリ才宣教会・島崎教区(聖ザベリ才宣教会・島崎教区)

「信仰伝達の分かち合い」はテーマを決めて2回行った。グループ活動としては、それぞれ活動内容を考えて歩みを進めた。典礼部では主日と祭日のミサの典礼準備に勤

トの内に貧しい人を見ること」を活動目的とし、貧しい人、弱い立場の人、小さな人のために奉仕している。レジオ・マリアもあり、活動目的を「福音の宣教と会員の聖成」とし、司祭と共に病人訪問や教会の通信を持って家庭訪問を活動内容として行っている。ほたるの会では、「ホームレスの人と同じ人として出会うに行くこと」を活動目的とし、毎金曜日の夜に春日公園でおにぎりやトン汁を配布したり、月1回第一日曜日にカレーを作り、信徒会館で食べてもらっている。祈りの会も小教区を支えるために祈りで奉仕している。

この他、聖堂掃除、花壇の手入れ、信徒会館の修理などに余念がない。見える形でまた見えない形で神のいつくしみを生きようと過ごしてきた。

「信じる喜びから伝える喜びへ② 柔和な人々は、幸い」

その代わりに必要なことは十字架に張り付けられたイエスを見つめること、その力を信じて、同じように自分の悩みを受け入れること(その中で他人からのものが多い)、そしてそれを持つてゆるしを乞いながらゆるすこと。

私にきんしゃうい 復活祭が近づいています。受難と十字架に向かつて進まれる柔和で謙遜なイエスを見つめる時です。日常の務めに張り付けられて、血と汗を流す自分たちもキリストの愛の寛大さを学び、となりの人に「大丈夫よ」と行動をもって伝えたいですね。柔和な人は聖人(さいわい)です。

「信仰伝達の分かち合い」やグループ活動を行った。復活の朝を平和と喜びのうちに迎えることができますように。お祈りしています。執筆 聖ザベリ才宣教会・島崎教区(聖ザベリ才宣教会・島崎教区)

「信仰伝達の分かち合い」はテーマを決めて2回行った。グループ活動としては、それぞれ活動内容を考えて歩みを進めた。典礼部では主日と祭日のミサの典礼準備に勤

トの内に貧しい人を見ること」を活動目的とし、貧しい人、弱い立場の人、小さな人のために奉仕している。レジオ・マリアもあり、活動目的を「福音の宣教と会員の聖成」とし、司祭と共に病人訪問や教会の通信を持って家庭訪問を活動内容として行っている。ほたるの会では、「ホームレスの人と同じ人として出会うに行くこと」を活動目的とし、毎金曜日の夜に春日公園でおにぎりやトン汁を配布したり、月1回第一日曜日にカレーを作り、信徒会館で食べてもらっている。祈りの会も小教区を支えるために祈りで奉仕している。

この他、聖堂掃除、花壇の手入れ、信徒会館の修理などに余念がない。見える形でまた見えない形で神のいつくしみを生きようと過ごしてきた。

ミサ用ワイン VINO DE MISA スイートタイプ(赤)(白) ご用命 お問い合わせは 有限会社 大楠酒店 ヨハネ 青木 彰 〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号 電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち 草苑 カトリックのご葬儀 互助会制度もご利用できます。 木下株式会社 TEL 092-526-5656 〒810-0016 福岡市中央区平和3丁目1-5

【月例黙想会】 期日：①4月20日(土)17時~21日(日)15時 ②5月11日(土)17時~12日(日)15時 指導者：染野治雄 神父(御受難修道会) 費用：8,700円(税込・指導料含む) ◆黙想会の申込締切は開催の一週間前まで ◆詳細はお問合せください カトリック御受難修道会・福岡黙想の家 811-4155 宗像市名残1056-1 Tel 0940-32-3222(9:30~16:30) Fax 0940-32-3385 E-メール f-mokuso@fmokusou.com



教区災害被災者支援室

熊本地震から3年 共に歩み続ける

熊本を襲った巨大地震当時から軸として働き、今も関わりを続けている福岡教区災害被災者支援室の森山信三神父から報告と思いが寄せられた。



発災直後のボランティア活動

2016年4月、震度7を2回観測した地震が熊本を襲いました。その5年前に未曾有の災害を体験した私たちでしたが、九州にはそんな巨大な地震が来ることはなかろうと多くの人々が思っていました。しかしその後も、地震は各地で頻発していることを考える時、日々の備えは勿論のこと、被災者のことを忘れないことが大切なことだと思います。

教区としては発災当時、菊池教会を拠点として、全国からボランティアを受け入れ、また全国から寄せられた義援金を被災された信徒の皆様にもお届けすることが出来ました。また、当時菊池教会のペースにボランティアのために夕食を作っていたくようお願いした西原村の方々とのご縁があり、現在も交流が続いています。6月には田植え、10月には稲刈りと教区内の多くの方々も参加していただき、また5.6トンものお米を教区の皆様に購入していただき、現地の方々にも本当に感謝されております。

地震、津波とともに起こった原発事故に関して、ある日本の著名な作家が語っていました。「原発を廃止しろ、と直接に言うより、それがどれだけ人を傷つけてきたかを訴えることが小説家の仕事である」と。どれだけ科学技術が発達しても巨大化する自然災害を止めることは出来ません。しかし、それらの災害に遭遇してしまった人々の苦悩や痛みを寄り添うことはいつでも出来ます。私たちキリスト者の務めはそこにあると思います。災害支援室は、長崎に立ち上がった長崎教会管区災害支援室とも連携しながら、今後も被災された方々とともに歩んでいきたいと思っております。



西原村での田植え

小倉の福者デイエゴ加賀山準人 殉教400年記念コンサート



伊藤マンシヨの衣装をまもって歌う高田氏

小倉出身の福者デイエゴ加賀山準人は、今年10月15日に殉教400年の節目を迎える。記念祭に向けて準備を進めていく中で、当時の信徒たちの魂を癒し、心を浄めた聖歌・音楽を研究しているテノール歌手高田重孝氏、ピアノの前身「ヴァージナル」奏者花岡聖子氏にお願いして、小倉教会主催のコンサートを企画した。

高田氏は声楽家としてキリシタン研究にも深く携わり、天正遣欧少年使節が1585年にローマ教皇から贈られた3種類の衣装を425年ぶりに復元し披露した。その中の伊藤マンシヨの衣装をまもって歌ったその姿は、あたたかも天正遣欧少年使節がそこにいるかの如く感じさせた。同時に氏が日本語に訳した聖歌を自ら一曲ずつ丁寧に解説し、その時代の背景を思い浮かべさせた。

一方、花岡氏の卓越した技巧で奏でられたヴァージナルの響きは時に激しく、時に優雅で優しく、聴衆を魅了した。両氏の温かい人柄を伝えてくれた調子は、400年前にタイムスリップしたかのような感じを覚えさせた。230人が視聴したコンサートの後では、展示された

衣装に触れたり、ヴァージナルの鍵盤を興味深く弾いていた人も多くいた。これを機会に、信徒一同

「福者デイエゴ加賀山準人への祈り」

全国の青年が集うネットワークミーティング 福岡教区から16人の青年が参加

2月9日(土)〜10日(日)、岡山市のノートルダム清心女子大学一宮校舎を会場に、カトリック青年連絡協議会主催のネットワークミーティング(NWM)が開催された。NWMはカトリックの青年(18〜35歳)と青年司牧者が自由に集い交流することを目的とし、年2回、全国各地で開催されている。今回は広島教区が担当し、約120人が全国から集まった。福岡教区からは16人の青年が参加した。

「いつかえりい」をテーマに集った青年たちは、同じ信仰を軸に活動する全国の仲間と繋がる楽しい時間を過ごした。福岡地区青年会会長の古賀健人さん(糸島教会)によると、集いの広報の方法がフェイスブックやツイッターなど各種SNSを使いこなし、青年に馴染みのある方法で好感がもてたという。

教区外のこのような集いに参加する意義について、古賀さんは「様々な仲間との出会いは良い刺激になり、人間としての成長にもつながる。また他教区の活動の中にヒントがあったり、自分たちが抱える青年活動の悩みについてア

が分かち合いの場を持ち、400年記念祭に邁進できるようにと祈る次第である。北九州地区では殉教400年に

向けて福者を紹介するカードや「顕彰と分かち合い」の小冊子などを作成している。(報告)小倉教会 野口美津江



NWMに参加した福岡教区の青年たち

3月4日(月)、佐賀市内で社会福祉法人聖母の騎士会が運営する「いつくしみの苑」の落成感謝式が宮原良治司教の司式で行われた。



施設の入り口に立つ聖母子像を祝福する 宮原司教(中央)と下町神父

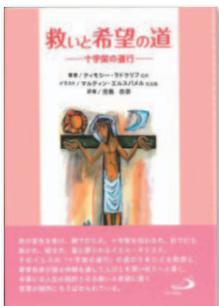
「いつくしみの苑」は母子世帯の生活の安全の保障と自立支援を目的とした「母子生活支援施設」。1979年に佐賀市によって設立された母子寮が、2017年に(社)福)聖母の騎士会に経営移譲され、新しい施設に生まれ変わった。児童福祉法に定められた施設として、保育室や心理療法室も設けられている。定員20世帯の施設に現在は12世帯31人が生活している。1. カトリックの愛と奉仕

の精神で、一人ひとりのいのちを大切にすべての人の幸福を願う。1. キリストの母マリアの心で、心身において助けを必要としている人々のかたわらに寄り添う」という理念のもと運営されている。落成感謝式には、けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道士会が約50人が集った。宮原司教は式の中で、この日の祈りは「①この施設を利用する人の尊厳と生命(いのち)が守られるよう、②この施設で奉仕する職員が幸せであるよう、③家庭を支える営みを通して社会が変わっていくよう」捧げられると説いた。

引き続き行われた祝賀式典では、けがれなき聖母の騎士聖フランシスコ修道士会会長の西村和子修道士が謝辞を述べ、「苦しい時、道を失った時、聖母子像に向かい、助けをくださいと祈ってほしい。地域にも愛される施設になってほしい」と語った。

母子生活支援施設の利用は、各市町村の福祉事務所等が窓口となっている。

☆救いと希望の道・十字架の道行 T・ラドクリフ著



◇◇◇ ※電子書籍版も同時発行 価格700円+税

不動産全般/売買・賃貸・管理 株)ジャパン・スマイルか

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション

総合建築業 森山工務店

本との出会い 人との出会い 神との出会い セント・ポール FUKUOKA

年間目標

信じる喜びから 伝える喜びへ

世界青年の日 4月14日(日)
聖週間 4月14日(日)～20日(土)
復活の主日 4月21日(日)

福岡カトリック神学院「司祭養成基金」のご案内

2019年4月、福岡カトリック神学院がスタートします。開校にあたり、長崎教会管区司教団は「司祭養成基金」への協力を呼び掛けています。

【送付先】※通信欄に「司祭養成基金」とお書きください。郵便振替：01720-6-1419

「福音宣教のための特別月間（2019年10月）」に向けての司教団の呼びかけ

教皇フランシスコが今年の10月を「福音宣教のための特別月間」とすることを宣言したことを受け、日本カトリック司教団は2019年3月17日付で「ともに喜びをもって福音を伝える教会へ『福音宣教のための特別月間（2019年10月）』に向けての司教団の呼びかけ」を発表しました。

『新たな熱意、手段、表現をもって』、絶えず全力で福音宣教に取り組む決意を新たにしたい」と文書は結ばれている。

宮原司教はすでに新年メッセージ（福岡教区報2019年1月号）で触れているが、福岡教区内でも教区、地区、小教区、各団体レベルで取り組みが検討され、実施されることが期待されている。

福岡地区カトリック女性の会 総会・講演会

日時：5月11日(土) 10時～総会 13時～14時半 講演会、14時45分～ミサ
場所：カトリック大名町教会1階講堂
講演テーマ：真の人間教育
講師：関根悦雄神父(イエズス会)

福岡教区2019年クルシリヨ開催

神さまと出会い、語り、恵みをいただく
日時：5月2日(木) 10時～4日(土) 15時
場所：福岡黙想の家(宗像市名残1056-1)
参加費：16,000円(宿泊、食事、事務用品等含む)

福岡教区広報室アドレス

http://fukuoka.catholic.jp
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com

お詫びと訂正
カトリック福岡教区報
2019年3月1日号の2面、「福岡教区人事異動」の記事で人名の表記に誤りがありました。

メモリーホール
人との絆を大切に、ご葬儀のご相談は
メモリーホール
業院・油山・野芥・小田部・今宿
馬出・南福岡・大野城・飯塚

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院
医科・歯科臨床研修指定病院
総合周産期医療センター
がん診療連携拠点病院

痛みの相談室
いくま整骨院
平日：9:30～12:00
14:30～20:00
土曜：9:30～15:00
休診：日曜・祝祭日

キリスト教書籍・用品
お買い物は365日、24時間 いつでもどうぞ！
http://www.paulus.jp
パウルスショップ

案内板

会合と催し

4月のこよみ

福岡黙想の家ご案内 4・5月

4月 1日(月)～5日(金) オブレート会
6日(土) ロザリオの会
8日(月)～12日(金) 厳律シトー会上長会議

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

※祈りの集い
年間テーマ：「祈り」神秘体験～キリストによって神との出会い
日時：4月11日(木) 10時～15時

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：4月13日(土)・27日(土) 10時～11時45分
5月11日(土)・25日(土) 10時～11時45分
場所：カトリック大名町教会小聖堂

1日(月) 福岡カトリック神学院開校ミサ・祝賀会
↑J.クレハン(2008年 荒尾教会)
3日(水) ↑A.アレグリーニ(2006年 ロザリオの園)

福岡

◆聖霊による刷新福岡祈りの集い(日時)毎週月曜11時～12時
(場所)大名町教会1階(内容)賛美と感謝の祈り・聖書の分かち合い(問合せ先) ☎092・521・2503 蓮尾

熊本

◆聖霊による刷新熊本祈りの集い(日時)毎週金曜日10時半～12時
(場所)手取教会信徒会館(内容)賛美と感謝の祈り・聖書と典礼の分かち合い(問合せ先) ☎096・384・1693 中川

北九州

◆小倉祈りの集い(日時)4月26日(金)13時半～15時
(場所)小倉教会信徒会館2階(内容)「みことばを味わ